経済指標ウォッチャー

7月米国CPI 市場予想を下回り、ピークをうったとの見方も

雇用統計で強まった0.75％利上げとの見方が0.5％利上げとの見方に

消費者物価指数（CPI）とは？

CPIとは消費者が実際に購入する段階の、輸送・食品・医療などの消費財やサービスの価格（物価）の変動を表す指数。CPIの項目、構成比、算出方法には国ごとに違いがある。米国では労働省が毎月中旬ごろに公表する。物価変動の基調をみるために価格変動の大きい項目を除いたコアCPIが重視されることが多い。米国ではCPIからエネルギーと食品を除いて、コアCPIが算出される。（参考：日本ではCPIから食品を除いてコアCPIが算出される）

CPIは前年同月比8.5％上昇

10日に米労働省が発表した7月のCPIは前年同月比+8.5％と市場予想の同＋8.7％を下回り、6月の同+9.1％から低下しました。足元の物価動向を反映する傾向があると言われる前月比も±0％と6月の同+1.3％から大きく低下しています。変動の大きいエネルギーと食品を除いたコアCPIも前年同月比+5.9％と市場予想の同＋6.1％を下回り、前月から横ばいとなりました(図表1)。

景気減速懸念によるエネルギー需要の低下観測などを背景に、ガソリンなどのエネルギー価格が大きく下落したことが伸び率低下の要因とみられます。また、新車不足などを受けて価格が高騰していた中古車価格も落ち着きつつあります。

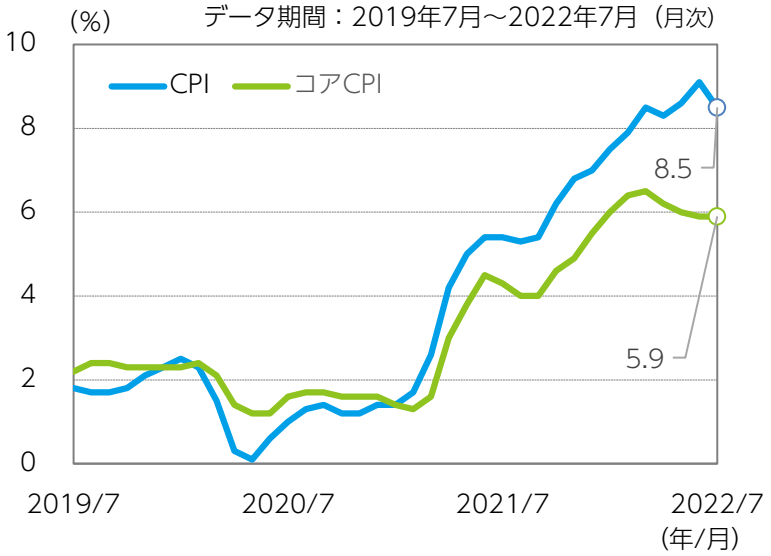
7月CPIは市場予想を下回る伸びだったことから、市場の一部からはCPIはピークをうったとの見方が出てきました。インフレのピークアウトにより、FRB(米連邦準備制度理事会)が利上げペースを緩めるとの見方から、米10年国債利回りはやや低下(価格は上昇)し、株価は大きく上昇しました(図表2)。

次回FOMCで0.5％利上げとの見方が優勢

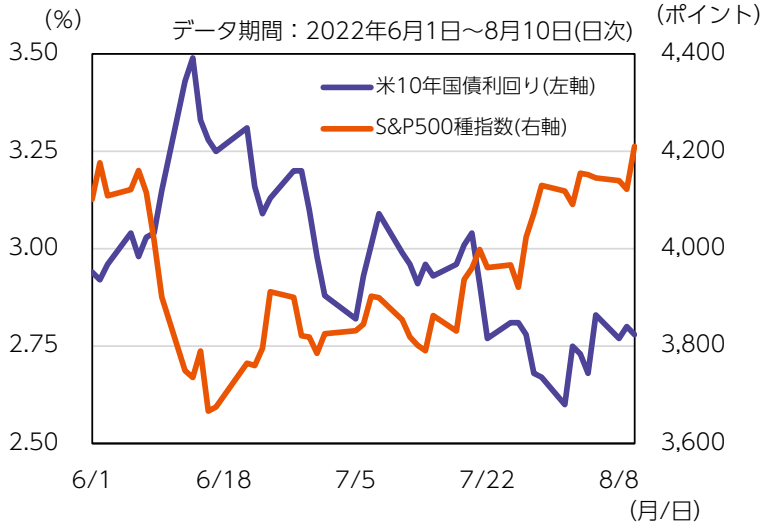
インフレ率(CPI)はFRBが目標としている前年同月比+2.0％の水準を17カ月連続で上回っており、直近5カ月は同8％を超える高い水準となっています(図表1)。さらに、５日に発表された雇用統計では、労働者の平均賃金の上昇基調が継続していたことから、賃金上昇によるインフレ圧力の高まりを懸念する声もあります。

雇用統計発表後、次回９月のFOMC(米連邦公開市場委員会)で0.75％利上げとの見方が優勢になったものの、今回の結果を受けて、0.5％利上げとの見方が優勢になっています。今後のインフレ率を占うためにも、９月のFOMCまでに発表される雇用統計、CPIに市場の注目が集まるとみられます。

図表1：米国のCPIとコアCPIの推移



図表2：米国の株価と長期金利の推移



出所）図表1はブルームバーグ、図表2はCEICのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

ニッセイアセットマネジメント株式会社
コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）
ホームページ　　https://www.nam.co.jp/

＜設定・運用＞
ニッセイアセットマネジメント株式会社
商 号 等：ニッセイアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者
関東財務局長（金商）第369号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会